

事業コード	H25-建-継-27		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	火山砂防事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防事業		班 名	砂防・防災班 (tel) 018-860-2519
路線名等	清水川		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	にかほ市象潟町		担当者名	副主幹(兼) 班長 鈴木 護
総合計画との関連	政策コード	11	政 策 名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施 策 名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

## 1. 事業の概要

事業期間	H21 ~ H26 (6年)		総事業費	5.7億円	国庫補助率	5.5/10
事業規模	砂防えん堤工 2基					
事業の立案に至る背景	当溪流は、にかほ市横岡に位置し、保全対象として人家82戸、市道5,200m、避難所となる公民館等を抱える荒廃した溪流である。平成19年8月の豪雨の際には、大量の土砂と倒木が流出し、河道埋塞や河岸決壊等を引き起こして横岡地区浸水被害の一因となった。また、溪床に不安定土砂が堆積しているのに加え、普段の降雨や流水で溪岸侵食や山腹崩壊が進行するほど荒廃しており、融雪や豪雨による土石流発生の危険性が高い。想定される流出土砂量が多く、被害想定範囲が広大で避難所も含まれることから、土石流発生時には不特定多数の人員に被害が及ぶ。このような土砂災害から砂防施設をもって人命、財産を保全するため、事業を実施するものである。					
事業目的	<p>【主たる目的】</p> <p>土石流を砂防えん堤で捕捉し、横岡・本郷地区人家82戸の生命、財産や地域防災計画上の避難所などを保全し、安全・安心な地域を創出する。</p> <p>【保全対象】</p> <p>人家82戸、市道5,200m、公民館1棟、耕地55.7ha</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		350,000	570,000	220,000	
	経費 内訳	工事費	211,000	507,000	296,000	
		用補費	96,000	60,000	-36,000	
		その他	43,000	3,000	-40,000	
	財源 内訳	国庫補助	192,500	313,500	121,000	
		県 債	141,750	230,800	89,050	
その他		0	0	0		
一般財源		15,750	25,700	9,950		
事業内容		本工事 地形測量 詳細設計 用地測量	本工事 地形測量 詳細設計 用地測量		現地測量及び詳細設計の実施により、1基計画では土砂の捕捉が困難であることが判明したため、2基計画となった。	
事業の進捗状況	全体計画 5.7億円 平成24年度末時点投資額 4.35億円 進捗率 76.3%					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組みの(4)社会資本整備の推進の中に、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	砂防えん堤の基数が増えたことから、事業が長期化している。また、平成25年8月豪雨等のように降雨の集中化や長期化の傾向が見られ、県内でも土砂災害が発生しており、ハード・ソフト一体となった対策が急務である。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	土砂災害危険箇所整備率				
	指 標 式	土砂災害危険箇所整備率=概成箇所数/危険箇所数				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	24.7 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実 績 値 b	24 %				
達成率 b/a	97.2 %	把握の時期		平成25年3月		

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	事業の早期完成に努めるとともに、完成までの間にはにかほ市及び地元住民と連携しながら避難体制を確立することで、地区の安全性向上を図る。
	②指摘事項への対応
	にかほ市とともに住民説明会を実施して沢の状況や危険性を周知するとともに、影響範囲が特に広範囲であることから、新たな避難場所を設定して避難訓練を実施した。

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	土石流が発生した場合には、横岡及び本郷地区の人家、避難所（公民館）、避難路を含む市道など、不特定多数の人身に被害が広範に及ぶ恐れがある。平成19年8月豪雨により土砂と流木が大量に流出しており、河道埋塞や床下浸水が発生した経緯があることから、砂防設備に対するニーズは高い。	20点
緊 急 性	山腹崩壊、溪岸侵食、倒木発生など流域は荒廃しており、普段の降雨や流水でも荒廃の進行が見られるため、土石流発生の危険性が高く、流域内の状況に変化はない。	10点
有 効 性	店舗の閉鎖等により若干の保全対象の減少は見られるが、事業の有効性に対する影響は小さい。	10点
効 率 性	事業の費用対効果は2.62であり、効果は高い。 ・総費用の現在価値 6.12億円 ・総便益の現在価値 16.02億円 残存型枠の使用など、トータルコストの削減を積極的に行っている。	30点
熟 度	当初の計画から多少の遅れはあるが、概ね計画通りに進捗している。また、平成19年度の土砂災害を受けて、にかほ市や地元住民から要望書が県に提出されており、砂防施設の必要性について認識されている。このほか、地元住民に対して危険箇所マップを配布するなど周知を図っており、被災した体験と相まって熟度は高い。	25点
判 定	ランク ( ● I ○ II ○ III ) 各項目とも評点が高く、本事業の評価は高いと考えら得る。	95点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト削減に留意しながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード (H25-建-継-27 )  
箇所名 (にかほ市象潟町 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20	20	
緊急性	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10	10	
有効性	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している (80%以上)	5		
		非常に減少している (80%未満)	0		
	計		10	10	
効率性	費用便益分析 (B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
	コスト削減計画	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0	10	
		具体的なコスト削減計画がある	10		
		具体的な計画はないが、検討中である	5		
計		0	30	30	
熟度	事業の進捗状況	計画どおり進捗している (100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している (70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている (70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
計		0	30	25	
合計			100	95	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		